



俳句ゆめクラブ会報

2023年6月27日

第 156 号

梅雨空に癒しのさまの花手水

長澤輝子

互 選

喉ごしやこれぞ日本の冷奴 長澤輝子
 梅雨空へピアノ練習曲流れ 吉野利美子
 枇杷の実の人無き家に落つるのみ 浅見法子
 親去れば気配を消せる燕の子 岡田時雄
 雨垂れの音の柔らか手毬花 岡田時雄
 梅雨晴間ここぞとばかり干しに干す 瀬戸川公子
 片蔭に招いて世界の話など 吉野利美子
 豆よりの滋味のしみじみ冷奴 小林健一郎

〔 決定事項・連絡事項 〕

・ 次回句会 7月25日(火)

・ 県活・2022号室(13時より)

(当番:瀬戸川、長澤)

兼題 「昼寝」

・ 先の事ですが10月の句会は第四火曜日が取れず
第五火曜日の10月31日となります。

・ 今回は11名出席

(小林健一郎記)

なんとも此の処世の中が混とんとしている気がして
 ならない、ロシアとウクライナの戦争も始まった頃に
 は直に終わると思っていたのが未だ目途も立たず、日
 本の世相はと言えば悲惨、物騒な事件が日々起きてお
 りいつ降り掛かるのかも心配になる毎日である。
 安穩と暮らしているのが却っておかしいような錯覚さ
 え覚える始末、もう少し落ち着いた世の中に戻って欲
 しいものである。
 今日には11名全員参加、兼題は「冷奴」であった。

〔 句 会 〕 県活2022号セミナー室

13時〜14時30分

梅田先生の句

どうしても行かねばならぬ真炎天
 ミニ缶のビールひと日の終はりけり
 冷奴人は本心明かさざる

梅田先生選

《 特 選 》

冷奴親の代より木綿好き
 弓を引き見定める目や青葉風
 五月尽く雪降る万座神の庭
 平和の詩語り継がねば沖繩忌
 供養会か漏れくる読経夏椿

浅見法子
 岩松忠子
 鈴木幸恵
 八千代幸男
 宮島昭夫

《 入 選 》

忙しなきひと日の夕餉冷奴
 声高に園児等のゆく梅雨晴間
 青嵐新芽挫きて過ぎゆけり
 吸ひ込むる大気の重き梅雨最中
 にぎやかに恋人を呼ぶ行々子
 清き水隠し味なり冷奴
 微酔の膳に追加の冷奴
 湖の森うるさきほどに蟬時雨
 妻留守の夕餉の買ひ出し冷奴
 大吟醸よき友なりや冷奴
 母の手はいつも忙しく冷奴
 食事会気取りてをりぬ冷奴
 雨上がりくちなしの花映ゆる白
 草茂り伸びの早さに刈り切れず
 次々に輪が出来消ゆる梅雨の川
 喧嘩して仲直りせず梅雨に入る

鈴木幸恵
 宮島昭夫
 小林健一郎
 岩松忠子
 小林健一郎
 岡田時雄
 瀬戸川公子
 鈴木幸恵
 宮島昭夫
 八千代幸男
 吉野利美子
 岩松忠子
 八千代幸男
 瀬戸川公子
 長澤輝子
 浅見法子

